

2021年12月6日

日本技術史教育学会
会員各位

学会誌「技術史教育学会誌」編集委員会

技術史教育学会誌記載事項の訂正

技術史教育学会誌 第23巻第1号79ページ下の奥付で、お名前に記載間違いがございましたので、お詫びと訂正を致します。

(誤) 会長 牛山 泉 → (正) 会長 吉田 喜一
次ページに、79ページの修正版を示します。

以上

【編集後記】

新型コロナウイルスの影響が続いている状況下にもかかわらず、巻頭言、特別寄稿、研究論文、実践論文、資料、研究会紹介および博物館紹介の記事をいただいた先生方に厚く御礼申し上げます。

巻頭言では、牛山 泉 前会長と吉田 喜一 新会長に学会への学会のこれまでとこれからの学会についてご執筆いただきました。

特別寄稿では、坂元 愛史 先生に美術系のデザイン教育について執筆いただきました。その中で「未来を考える能力」を重視していると述べておられますが、すべての教育に必要であると感じました。

論文は、研究論文1編および実践論文1編が掲載されました。内容は、以下の通りです。

日本統治下にあった台湾で活躍した日本人技術者の時局に対する見方と対応

スターリングエンジンをを用いた工学教育の30年にわたる取組みとこれからの展開

資料は、台湾の烏山頭ダム『珊瑚潭』の命名について検討したユニークな内容です。

今回新たな記事ジャンルとして、【研究会紹介】を掲載しました。内容は、日本メカニズムアーツ研究会の概要で、前進の研究会も含めると30年近くも活動されており、特に2006年以降の活動内容が詳細に報告されています。

博物館紹介は、ベルギーの本の博物館、鉄道博物館および産業博物館を紹介いただきました。

コロナの終焉は見えませんが、これからはそれに左右されない技術史教育および学会活動を行っていかなくてはなりません。学会員の皆様の協力をお願いいたします。

(桑原 啓一)

オンライン、オンデマンドなどの遠隔方式や、入室人数を制限する方策など、教育現場や学会ではいまだ様々な対応が取られています。その良い

影響も悪い影響も数字となって現れつつあり、FDのテーマはどれもこれ一色なのではと思ってしまいます。どの対策にも悪い影響ばかりでなく、今後も残さざるを得ない利点があったのは事実です。一方で、失ってしまったものは戻せるのでしょうか。その場に移動してリアルに参加できる学会が大きなインセンティブになっていたことは誰も否定できないでしょう。いや、大人はまだいいのです。小学生はいつまで、黒板を向いて無言で給食を食べなければならないのでしょうか。その鬱憤まで、バーチャルな世界で晴らせと言うのでしょうか。タブレットやノートPCには荷が重すぎると思います。

(中條 祐一)

百余年前、全世界でスペイン風邪が大流行しました。その最中に奮闘した地方の民間医師の記録が残されています。栃木県塩谷郡矢板町の開業医である五味淵伊次郎は、『大正七・八年ノ世界的流行性感冒ノ 見聞録 並ニ之に「ヂフテリア」血清ヲ応用セル治療実験』を著しています。この記録を読むと患者の症状が詳しく書かれています。同医師は海外の学者間の論争にも言及しており、情報収集力に感嘆させられます。そして、得られた情報と症例から、多くの患者にヂフテリアの血清を注射します。この医療行為は現在であれば賛否両論かもしれません。一方で得られる情報と使える医薬から最善の方法を選択・決断して、苦しむ患者を何としても助けるといふ気概を感じます。現在、私たちはコロナ禍にあります。加えて、地球温暖化対策など未曾有の課題を解決していかねばなりません。史実に学び、最善の解決策を考えて実行していかねばならない、そのような時勢下では技術史は極めて大切だと考える次第です。

(岡崎 昭仁)

●編集 技術史教育学会誌編集委員会
jseht.toukou@gmail.com

●発行 日本技術史教育学会(会長 吉田 喜一)
〒113-0023 東京都文京区向丘 2-34-5
ホワイトマンション 201 (株)プラス・ワン 気付
TEL/FAX : 03-3824-2611
URL : <http://jseht.world.coocan.jp>

郵便振替 00330-0-17317
発行日 2021年10月31日

●印刷 (株)プラス・ワン
〒113-0023 東京都文京区向丘 2-34-5
ホワイトマンション 201/202 (株)プラス・ワン